

あのね、保育の根 No.6

～しゃんのおたより～ 9月



まずは、前回のおたよりを読んで「見ました！」「次も楽しみにしています！」と声を掛けてくださった保護者の方々..他園の方々も..ありがとうございます！非常に励みになります！

❁やりたくなければやらなくていい？

前は「選択の自由」の中でも「やりたい」という選択についてお話をしました。今回は「やらない」という選択をどう受け止めるかというお話です。

子どもたちの「やりたくない」という場面は、朝の支度や遊びの片付け、集団あそび(例えば、椅子取りゲームやリレー)等で見られることがあります。そんな時「そっか、今日はやりたくない日か、分かったよ！先生が全部やるね！」と最初から声を掛ける先生たちはいないと思います。まずは、何でそんなに「やりたくない」と思うのかを聞いてみたりします。(おとなにだってそんな気分の日ありますよね 笑)子どもたちからは「やりたくなかったから！」と返ってくることも多いですが、「やりたくないは理由になりません！自分でやりなさい！」なんて、不適切な発言はもちろんここでは言えません..笑

ここで次の手立てです。「コップだけは先生がお手伝いするね！あとは〇〇ちゃんが準備してくれたら助かるなあ。」「自分の使ったやつだけでいいんだけど、これってどこにしまったらいいのかなあ。先生忘れちゃったからお手伝いしてくれないかなあ。」「誰かと一緒だったらやってみる？」「1回目だけでも一緒にやって(参加して)みない？やっぱ苦手だと思ったら抜けて良いよ。」「今日は見るだけにしてみようか。」等、子どもたち自身がなるべく取り組めるような声掛けをすることを心掛けています。

こういったやりとりで、こちらの意図していない姿になることは当たり前..「～えんちょうのおたより～7月」で“誰も発達には凸凹してい

る”ということを話していました。得意なことと苦手なことは誰にでもあります。苦手なことを強要したりはしません。しかし、やってみたいと思えるようにどう声を掛けるか、どう環境を作るかは、私たちの力にかかっている..腕の見せ所ですね！(ね！先生たち！笑)

現在、インクルーシブ教育・保育が重要視されています。(ここでは障がいがあるなしに関わらず、すべての人に発達の凸凹があるということ踏まえて)「させる活動から、参加の喜びを感じることができる保育」..多様な子どもに保育を当てはめるのか、多様な子どもでも保育に参加が可能な環境なのかは大きく違います。

幼稚園時代のわたしはクラスでの集まりが好きではありませんでした。「先生の近くに集まって！」という時は、他のみんなが座るのを待ってから後ろの方に座ります。ランダムに集まって、友達とぶつかったりするのが嫌だったんですね。運動会では走らないで先生に抱っこしてもらっていたり、発表会はステージ上でダンスをせず突っ立っているだけだったこともありました。園の行事は、練習はするけど当日やらないタイプです。普段はいない人たちが、この日だけカメラを構えてくるのが嫌でした。(当時3.4歳児でしたが、その不快感をなんとなく覚えています。)両親から、当時はだいが頭を抱えたと聞いています..(発表会の日には家に帰ってから、こっぴどく叱られました。)でも、その頃の私はどうしてもそういう環境が苦手でした。

行事等に対しての記憶は、あまり楽しいものではなかったのが正直なところなんです。みんなですることやお客さんに見に来てもらうことが嬉しいと思う人ももちろんいます。当時の自分と同じ思いをしている子だけに寄り添うというわけでもありません。ただ、「させる活動から、参加の喜びを感じることができる」という環境が「自分はできない子」という自己肯定感の低下から守れたりするのかな..と思っております。